

小林秀雄著『本居宣長』:各章主題の「関係論」的纏め

八章	①天下(c')②人間(物:場c')③心の世界(物:場c')⇒からの関係:①と②とを③に「④移した」(D1の至大化)⇒「⑤眼に見える(形而下の)下克上劇(④的対立概念F)⇒E:⑤から「⑥眼に見えぬ(形而上の)克己劇(物:場c')を創り上げた」(Eの至大化)(⑤への距離獲得:Eの至大化)⇒藤樹(△杵):①への適應正常。
九章	①仁齋の學問(物:場c')②藤樹(物:場c')⇒からの関係:②が「③:心法と呼びたかつたものが①の根幹をなしてゐる」(D1の至大化)⇒しかし②がそのまま信じた「④:四書[朱熹の編集]・大學[朱熹の編集(禮記の大學篇)]」(③的対立概念F)⇒E:④に「⑤:原典批判や『大學、孔子之遺書に非らざるの辯』の劃期的研究も現れるに至つた」(Eの至大化)(④への距離獲得:Eの至大化)⇒仁齋(△杵):②への適應正常。
十章	①世(c'場)②言(物:場c')③種(物:場c')⇒からの関係:①は②を「④:『載せて以て遷る』といふ考への生れた③は」(D1の至大化)⇒「⑤:すべての言葉」(④的概念F)⇒E:⑤は「『碑文的性質』を藏して、 獨力で生きてゐる一大組織 と言ふ理由から」(Eの至大化)(⑤への距離獲得:Eの至大化)⇒徂徠(△杵):①への適應正常。
十一章	

①(物:場c')

八章:①天下(c')②人間(物:場c')③心の世界(物:場c')

九章:①仁齋の學問(物:場c')②藤樹(物:場c')

十章:①世(c'場)②言(物:場c')③種(物:場c')

十一章:

②	からの関係②(D1の至大化)
八章	①と②とを③に「④移した」(D1の至大化)
九章	②が「③:心法と呼びたかつたものが①の根幹をなしてゐる」(D1の至大化)
十章	①は②を「④:『載せて以て遷る』といふ考への生れた③は」(D1の至大化)
十一章	

F(言葉・概念)...

八章:「⑤眼に見える(形而下の)下克上劇(④的対立概念F)

九章:「④:四書[朱熹の編集]・大學[朱熹の編集(禮記の大學篇)]」(③的対立概念F)

十章:「⑤:すべての言葉」(④的概念F)

十一章:

E: [F(③言葉・概念)との附き合ひ方④・用法④]...「So called」

「F③と(△杵)との距離獲得」(Eの至大化)。

八章:⑤から「⑥眼に見えぬ(形而上の)克己劇(物:場c')を創り上げた」(Eの至大化)(⑤への距離獲得:Eの至大化)。

九章:④に「⑤:原典批判や『大學、孔子之遺書に非らざるの辯』の劃期的研究も現れるに至つた」(Eの至大化)。

十章:⑤は「『碑文的性質』を藏して、**獨力で生きてゐる一大組織**と言ふ理由から」(Eの至大化)(⑤への距離獲得:Eの至大化)。

十一章:

(△杵)

八章:藤樹(△杵)。

九章:仁齋(△杵)。

十章:徂徠(△杵)

十一章: